

2016ルール改正の主なポイント

※ オレンジ文字 は削除部分、赤文字 は新規追加部分

1-69項	テンポラリーランナー TEMPORARY RUNNER
変 更	とは、捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、・・・(中略)・・・攻撃側チームの選択である。 テンポラリーランナーとなる選手は、捕手の前の打順の者である。ただし、捕手の前の打順の者が走者となっているときは、さらにその前の打順の者がテンポラリーランナーとなる。テンポラリーランナーは、塁上の走者以外の選手で、打順が最後に回ってくる者とする。
ポイント	2015年度のルール改正の際、ISFルールの解釈・適用との相違があったため。

3-1項	バット
修 正	5.握りの部分には安全ノブをつけなくてはならない。 安全ノブは90～100度の角度で、少なくとも8mmの高さが必要にならない。
ポイント	ISFルールでこのルールに合致しないバットの使用が認可され(ISFルールも改正される)、日本国内でも用具検定をパスし販売が予定されているため。

3-4項	靴(シューズ)
修 正	5.靴は同色のものを使用しなければならない。
ポイント	同一チーム内で、色・模様の異なるシューズを使用することは認められる。 ISFルールに規定のないルールであるため改正された。

3-8項	ユニフォーム及びヘルメットの宣伝広告表示
修 正	ユニフォーム及び帽子・ヘルメットには、宣伝広告(企業名・商品等)に類するロゴマークを表示することができる。ただし、その表示方法は次のとおりとする (1)ユニフォームに表示できる場所は左袖の一箇所に限定し左袖一箇所、右袖一箇所、ズボン左右一箇所ずつとし、その大きさはそれぞれ「縦50mm×横120mm」を超えないものとする。 (2)表示するロゴマークは全員が同じでなければならない、全員のユニフォームに表示しなければならない。 (3)帽子・ヘルメットに表示できる場所は左右どちらかそれぞれ一箇所とし、すべての

	帽子・ヘルメットの同一箇所に表示する。大きさはそれぞれ「縦50mm×横120mm」を超えないものとする。 ・・・(以下略)
--	---

4-11項	テンポラリーランナー
新 設	捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、捕手が出塁し、走者となったとき、捕手の代わりにテンポラリーランナーを使用することができる。 (1)テンポラリーランナーと交代させるかどうかは、攻撃側チームの選択である。 (2)二死後であれば、いかなる時点でもテンポラリーランナーを使用することができる。 (3)テンポラリーランナーとなる選手は、捕手の前の打順の者である。ただし、捕手の前の打順の者が走者となっているときは、さらにその前の打順の者がテンポラリーランナーとなる。テンポラリーランナーを使用するときは、塁上の走者以外の選手で、打順が最後に回ってくる者をテンポラリーランナーとする。 (注)テンポラリーランナーに間違った選手が出た場合には、正しい選手と交代させる。(それに対するペナルティはない)
ポイント	2015年度のルール改正の際、ISFルールの解釈・適用との相違があったため。

競技者必携改正の主なポイント

審判の部 4. 試合の運営について	
1. 試合をスムーズにさせるために	
変 更	(8)不鳴のおそれのあるときは、速めに金属用具の使用を取りやめ、試合を中断する。雷鳴がかすかにでも聞こえたら、ただちに試合を中断する。

審判の部 5. 審判員申し合わせ事項	
8. 打撃について	
変 更	(7)打者が監督のサインを見るために、しばしば打者席を外したときは厳重に注意する。 さらに打者席を外したときは、“ストライク”を宣告する。
ポイント	ルール7-3項4においてペナルティを課していないため、従前の文章の「さらに～」以下を削除し、ルールの内容に適用を合わせた。

審判の部 6. 審判実務のために	
4. 球審について (4)試合の進行	
変 更	ア. “プレイ”の指示 (イ)打者が、球審がプレイを指示したのち・・・(中略)・・・ペナルティワンストライクとコールする。※打者が、しばしば打者席を外して監督のサインを見るときは、目に余る再度の違反については、ボールデッドにしてワンストライクをカウントする。(ペナルティワンストライクとコールする)
5. 塁審について (4)塁審の位置と姿勢	
変 更	イ. 二塁塁審 【走者のいないとき】(図C) 中堅手の守備の妨げにならないように常に注意し、A(塁から6～7m程度)に位置する。 【走者が一塁・二塁にいるとき】 塁にやや近づいて(塁から4～5m程度)タッチプレイに備える。 【走者が二塁にいるときおよび走者二・三塁のとき】 二塁果進は一・二塁の延長(B)に立つ。(塁から4～5m程度)
ポイント	二塁塁審の位置は、走者の位置に関わらず二・三塁の延長線上となる。 これに伴いローテーションが一部変更されている。(詳細は略)